

国公立大 総合型・推薦型選抜 9年連続拡大！

全募集人員に占める両選抜の割合は22.5%、過去最高を更新！

旺文社 教育情報センター 2022年11月10日

文部科学省はこのほど、『令和5年度 国公立大学入学者選抜の概要』を公表した。「総合型＋学校推薦型」の両選抜での募集人員が全体に占める割合は9年連続拡大で過去最高。本稿では国公立大入試の募集の概況、各選抜に関する過年度からの推移数値などをまとめた。

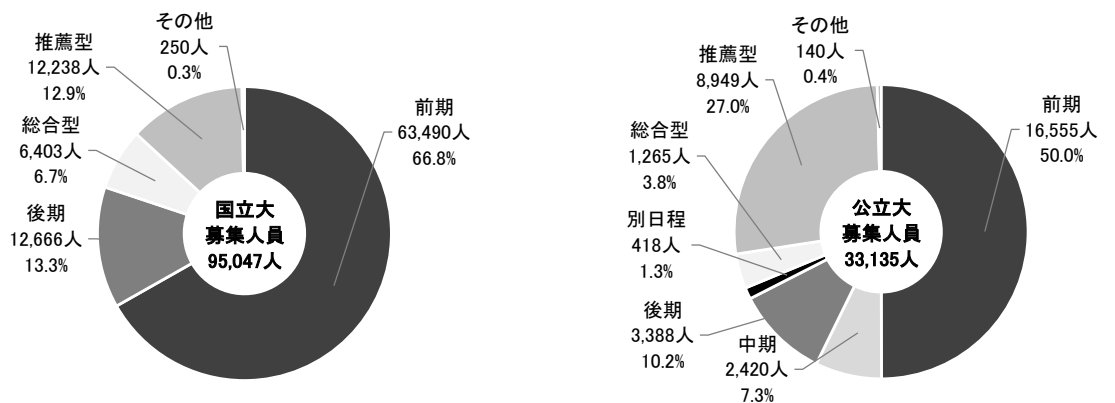
※本稿のデータは、『国公立大学入学者選抜の概要』(文部科学省)に基づく。各年7月末現在の集計。専門職大学を含む。7月末時点での設置認可申請中等の予定を含む(新設予定大学を除く)。外国人留学生対象の選抜は募集人員に含まない。

■2023年 国公立大入試の募集に関する概況

Point

- ◆国公立大の募集人員が増加。公立大の大学・学部・学科増、定員増に加えて、2023年入試では国立大3大学で定員増。
- ◆募集のメインは一般選抜ではあるものの、その募集人員は減少傾向。
- ◆かわって総合型・学校推薦型選抜が増加。
- ◆とりわけ、総合型と、共通テスト(共テ)を課す学校推薦型の増加が目立つ。

【図表1】 2023年入試 国公立大 入試方式別の募集人員と割合



[選抜 実施大学・学部]

- ・国立大 82 大学 403 学部(+2 学部)
- ・公立大 96 大学 213 学部(+2 大学 4 学部)

[募集人員の合計]

- ・国立大+146人(+0.2%) / 公立大+706人(+2.2%)

[一般選抜の募集人員]

- ・国立大 前期+37人(+0.1%)、後期▲280人(▲2.2%)

- ・公立大 前期+229人(+1.4%)、中期+71人(+3.0%)、後期▲1人(-)、別日程±0人(-)

[総合型選抜の募集人員]

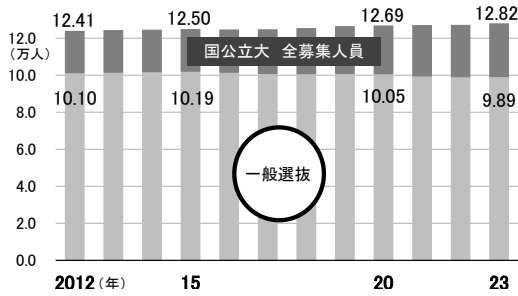
- ・国立大+112人(+1.8%) / 公立大+143人(+12.7%)

[学校推薦型の募集人員]

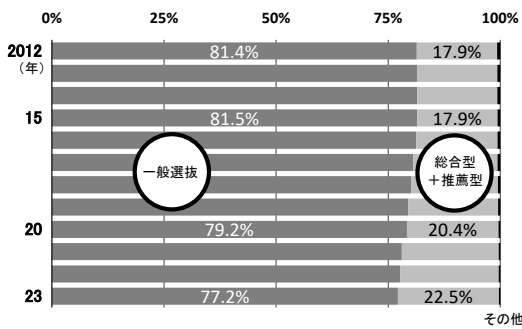
- ・国立大+337人(+2.8%) / 公立大+265人(+3.1%)

※()は対前年の増減。▲は減。

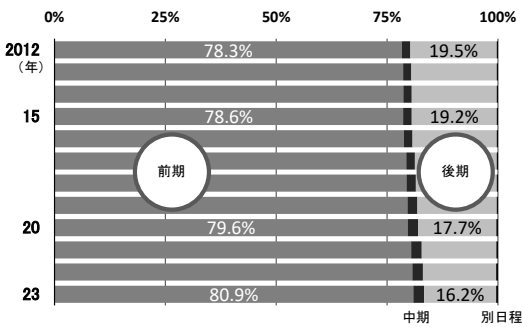
[図表2] 国公立大入試 募集人員の推移



[図表3] 国公立大入試 入試方式別の募集人員の割合の推移



[図表4] 国公立大入試一般選抜 日程別の募集人員の割合の推移



[図表5] 2023年入試 公立大一般選抜 中期日程・別日程の実施大学

公立大 中期日程 実施大学		公立大 別日程 実施大学
釧路公立大学	都留文科大学	岡山県立大学
公立千歳科学技術大学	公立諏訪東京理科大学	新見公立大学
岩手県立大学	長野大学	山陽小野田市立山口東京理科大学
秋田公立美術大学	長野県看護大学	下関市立大学
高崎経済大学	長野県立大学	周南公立大学
前橋工科大学	岐阜薬科大学	
三條市立大学	静岡県立大学	
長岡造形大学	名古屋市立大学	
金沢美術工芸大学	大阪公立大学	
公立小松大学	兵庫県立大学	
	奈良県立大学	

- ◎全体の募集人員は、公立大の増加を主要因として増加傾向。2012年と比べて、2023年入試では0.4万人増（図表2）。国立大も3大学で定員増があり2023年入試は前年より増加。※公立大の新設は本稿でデータを示した2012年以降、19大学（うち1大学は既設2大学の統合）。※国立大の定員増は[こちら](#)を参照。
- ◎全体の募集人員の増加傾向の一方、一般選抜の募集人員は減少傾向。2016年以降で0.3万人減（図表2）。
- ◎一般選抜の募集人員が全体に占める割合は、2023年入試では77.2%。依然高率だが対前年0.5%ダウン。経年比較では割合は低下傾向（図表3）。
- ◎総合型、推薦型は、ともに募集が拡大。全募集人員に占める「総合型+推薦型」の割合は、国公立大合計で、2015年以来9年連続上昇。2023年入試は対前年+0.5%の22.5%で過去最高（図表3）。募集人員は両選抜合計で前年より、国立大+449人、公立大+408人。
- ◎一般選抜のなかでは、後期日程の募集人員の割合が低下（図表4）。2023年入試の後期実施学部数は前年より6学部減。
- ◎公立大のみの中期日程。かつて12大学で実施されていたが、2013年新設の秋田公立美術大が実施以降、その数が増加。また、公立大では別日程で一般選抜を行う大学もある（図表5）。

■2023年 国公立大入試 総合型選抜・学校推薦型選抜の実施概況

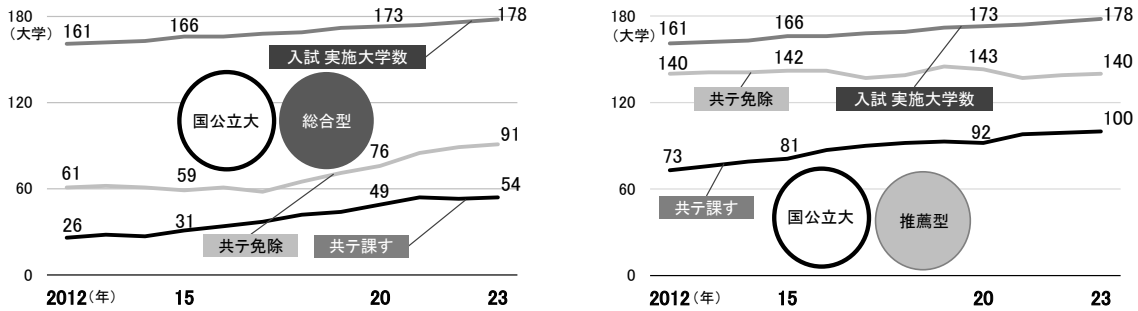
◎総合型・推薦型の両選抜の実施大学は、推薦型（共テ免除）を除いて増加傾向（図表6）。

◎2023年入試を実施する178大学に対する実施率（国公立大計で算出）は、総合型[共テ課す] 30.3%、同[共テ免除]51.1%、推薦型[共テ課す]56.2%、同[共テ免除]78.7%（図表6）。

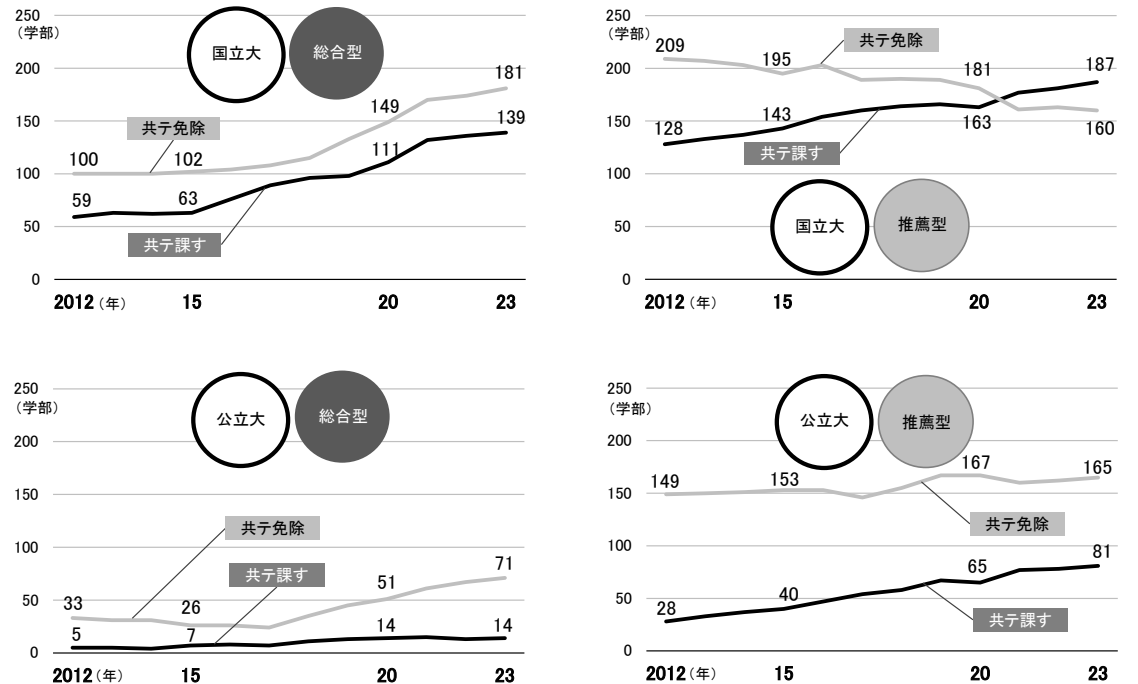
※ちなみに総合型・推薦型のいずれも全学で実施していない国公立大は、東京藝術大と京都市立芸術大の2大学のみ。

◎国立大は総合型・推薦型ともに実施学部数は同程度。公立大は推薦型の実施が主（図表7）。

【図表6】国公立大 総合型・学校推薦型選抜の実施「大学数」の推移



【図表7】国公立大 総合型・学校推薦型選抜の実施「学部数」の推移



◇総合型・推薦型の実施大学・学部数の前年差

※()は対前年の増減。▲は減。

[総合型]

・共テ課す

国立大 44 大学 139 学部(+3 学部)
公立大 10 大学 14 学部(+1 大学、+1 学部)

・共テ免除

国立大 55 大学 181 学部(+7 学部)
公立大 36 大学 71 学部(+2 大学、+4 学部)

[推薦型]

・共テ課す

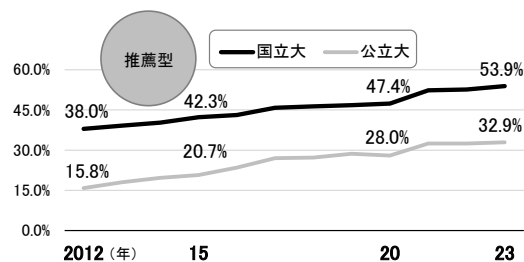
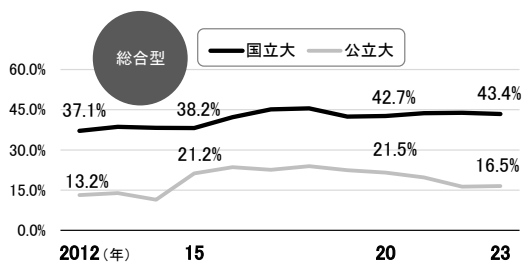
国立大 62 大学 187 学部(+6 学部)
公立大 38 大学 81 学部(+1 大学、+3 学部)

・共テ免除

国立大 58 大学 160 学部(▲3 学部)
公立大 82 大学 165 学部(+1 大学、+3 学部)

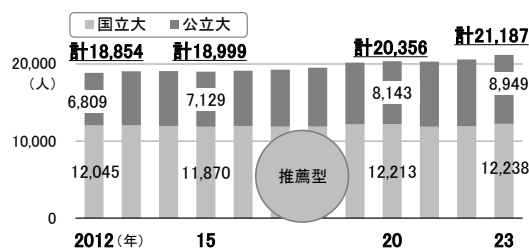
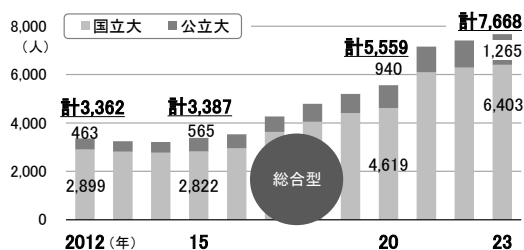
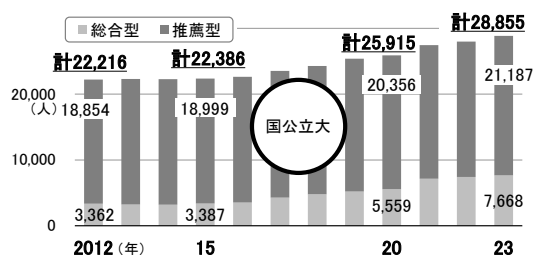
[図表8] 国公立大 総合型・学校推薦型選抜 共テを課す割合の推移

※各選抜実施学部数の計に占める割合



[図表9] 国公立大 総合型・学校推薦型選抜 募集人員の推移

※下段の総合型と推薦型のグラフは縦軸の数値が異なることに留意。



- ◎共テ課す、共テ免除の別を見ると、全般的には共テ免除が主。ただし、推薦型では共テ課すが拡大傾向。とりわけ国立大の推薦型では、2021年に共テ課す学部数が、共テ免除のそれを逆転。2023年入試では共テ課す学部数の割合が対前年+1.3%の53.9%に(図表7・8)。
- ◎総合型・推薦型の実施大学・学部数の増加により、募集人員も拡大。両選抜合計の募集人員は3年前の2020年入試と比べて+2,940人。国立大の総合型の募集人員増が顕著(図表9)。

■多様な背景を持った者を対象とする選抜

- ◎このほど公表された『令和5年度 国公立大学入学者選抜の概要』では、初めて、「多様な背景を持った者を対象とする選抜」の実施大学・学部が一覧表にまとめられた。
- ◎実施大学・学部を概観すると、出願資格に「地元出身」がある地域枠が多くを占める。
- ◎一方で、理工系分野の女子対象の選抜の実施大学として、富山大一工、名古屋工業大一工(夜除く)、島根大一材料エネルギー、兵庫県立大一工(いずれも推薦型)が示された。
- ※「大学入学者選抜実施要項」(文部科学省2022年6月3日)は、各大学の判断で行う入試の工夫として「多様な背景を持った者を対象とする選抜」を示していた。「家庭環境、居住地域、国籍、性別等で進学機会の確保が困難と認められる者」「入学者の多様性確保の観点から対象になると考える者(例:理工系分野の女子等)」を対象者として、入学志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視し、評価・判定する入試方法とされている。

(2022.11 加納)